

令和4年度春期 ネットワークスペシャリスト試験合格発表 分析コメントと今後の対策

(株) アイテック IT人材教育研究部 2022,6,24

4月17日(日)に行われた令和4年度春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析をもとにして、ネットワークスペシャリスト試験の合格発表コメントをお知らせします。

■ネットワークスペシャリスト試験 (NW)

[令和4年度春期 ネットワークスペシャリスト試験 統計情報]

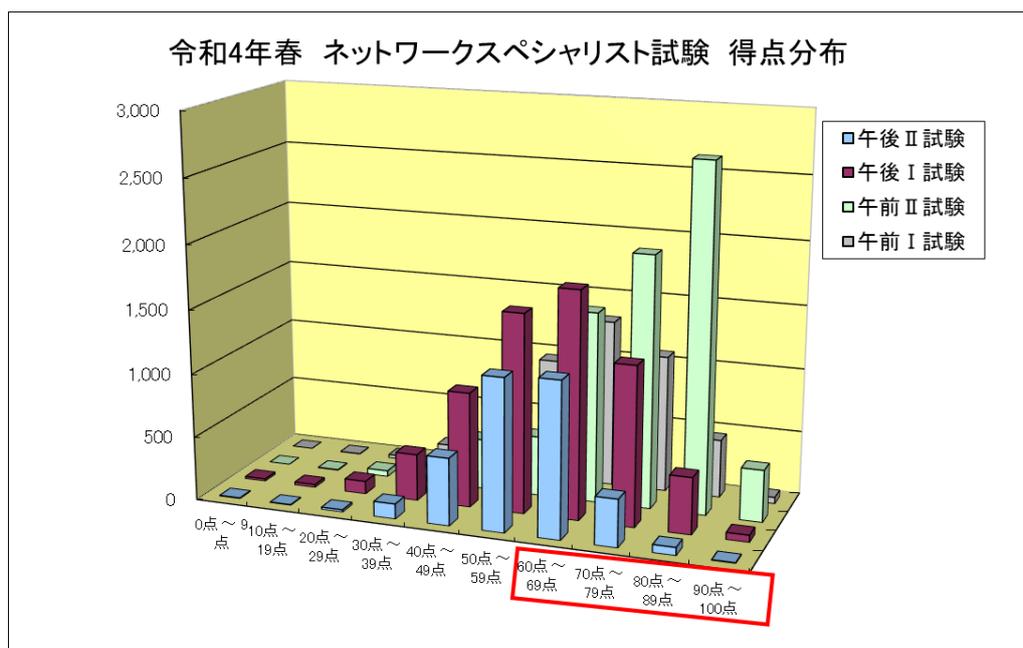
応募者	13,832人
受験者	9,495人
合格者	1,649人
合格率	17.4%

令和4年度春期のネットワークスペシャリスト試験の合格率は17.4%で、前回の12.8%に対して5%近くも増加しました。平成21年以降の現在の試験制度になってから最も高い合格率です。次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

[令和4年度春期 ネットワークスペシャリスト試験 スコア分布]

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	0	0	18	6	
10点～19点	3	5	23	5	
20点～29点	26	46	101	18	
30点～39点	167	141	367	118	
40点～49点	470	396	901	527	
50点～59点	957	470	1,556	1,187	
60点～69点	1,313	1,492	1,770	1,211	
70点～79点	1,075	1,970	1,245	371	
80点～89点	457	2,696	443	62	
90点～100点	50	408	55	5	
計	4,518	7,624	6,479	3,510	1,649
対前試験比率		168.7%	85.0%	54.2%	47.0%
午前Ⅰ免除者(概数)	4,977	52.4%			

合格者数	1,649	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	2,895	64.1%	1,246
午前Ⅱ60点以上合計	6,566	86.1%	4,917
午後Ⅰ60点以上合計	3,513	54.2%	1,864
午後Ⅱ60点以上合計	1,649	47.0%	0



午前Ⅰ試験免除で受験する人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前Ⅰ試験の免除者は概算で 4,977 人 (52.4%) いて、約半数の受験者の人が午前Ⅱからの受験となりました。ほぼこの比率で最近は推移しています。

次に午前Ⅰ試験で基準点 (60 点) 以上取れた人は 2,895 人 (受験者の 64.1%) で、前回の 62.6% から微増といえます。問題自体は例年と比べて易しい部類に入るといえます。

午前Ⅱ試験で基準点以上の方は 6,566 人 (受験者の 86.1%) となっており、こちらも前回の 84.3% から微増です。

午後Ⅰで基準点 (60 点) 以上取れた人は 54.2% で、前回の 43.7% から 10% 以上のかかなりの増加がありました。

午後Ⅱで基準点 (60 点) 以上取れた人は 47.0% で、こちらは前回の 44.6% から微増です。

■令和 4 度春期 ネットワークスペシャリスト試験 出題内容について

(午前Ⅰ試験 (高度試験の共通知識問題))

高度試験で共通して出される午前Ⅰ試験の 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) 80 問から選ばれていて、テクノロジー系 17 問 (57%)、マネジメント系 5 問 (17%)、ストラテジ系 8 問 (26%) という出題比率です。

午前Ⅰ試験には免除制度がありますが、高度試験の 4 割程度の方が午前Ⅰ試験から受験しています。毎回、午前Ⅰ試験を通過できる 60 点以上の得点者は 5~6 割で、出題範囲が広いため試験は以外と難しく感じる人が多いです。最初の試験でつまづかないように、確実に対策を進める必要があります。問題内容は、文章問題は 18 問 (前回 15 問から増)、用語問題は 7 問 (前回 5 問から増)、計算問題が 3 問 (前回 2 問から増)、考察問題が 2 問 (前回 8 問から減) でした。これらは毎回増減がありますが、考察問題が今回かなり少なくなりました。

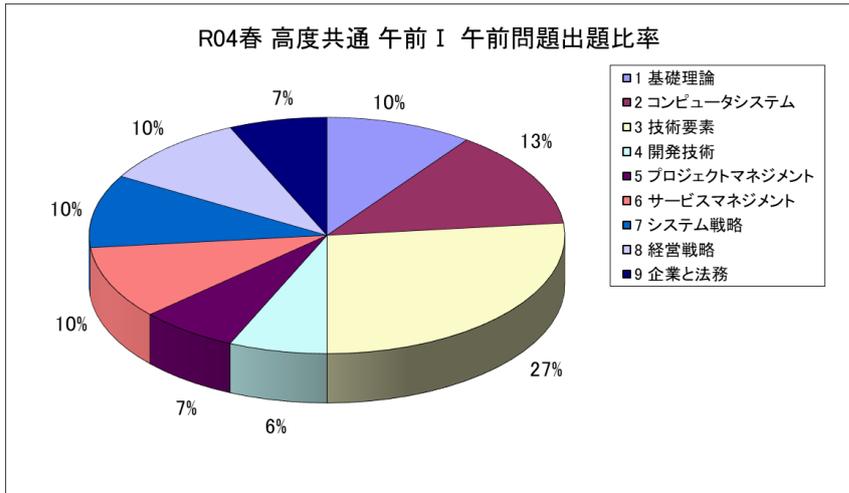
- ・問題は出題範囲からまんべんなく出題される前提ですが、前回と同様に、今回もヒューマンインタフェース、マルチメディアからの出題はありませんでした。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ 4 問で、最も多い出題数です。
- ・過去問題はこれまで平均で 7 割ぐらいありましたが、今回も同じ傾向で 7 割強ありました。内容的にはこれまで繰返し出題されている定番問題が多いのですが、対策をあまりしなかった人

には難しい内容ともいえます。全体としては前回より少し易しい内容だったと思われます。
 ・新傾向問題は次の3問で前回の7問からかなり減りました。これまでの平均は4問程度なので、従来の傾向に戻ったといえます。

(新傾向問題)

- 問 5 アムダールの法則に基づいた、性能向上へ及ぼす影響
- 問 13 複数の Web サーバにシングルサインオンを行うシステム
- 問 24 投資によるキャッシュアウトをいつ回収できるかを表す指標

令和 4 年度春期 高度試験共通 午前 I 問題出題比率

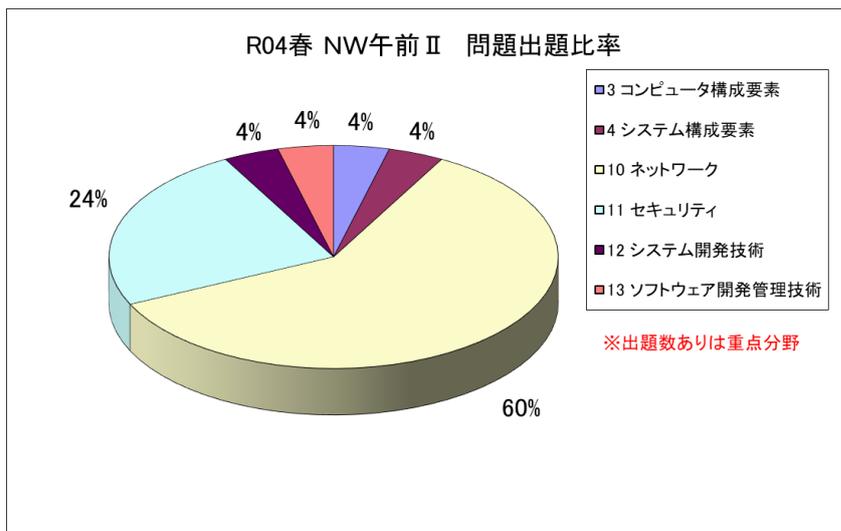


(午前 II 試験 (専門知識問題))

午前 II 試験で、ネットワークとセキュリティの専門知識の出題数は15問と6問の合計21問で、前回と同じでした。過去問題は全体の約6割を占めていますが、ネットワークスペシャリスト試験の過去問は11問で、前回の10問と大きく変わっていません。

新傾向問題は次の7問で、そのうち専門のネットワークとセキュリティ分野の問題は5問あり、難しい問題は少なかったといえます。

- 問 2 光ファイバの伝送特性に関する記述
- 問 10 イーサネットパケットヘッダの意味
- 問 11 サブネットマスクを交換しないプロトコル
- 問 12 ホストの IP アドレスとして使用できるもの
- 問 14 SNMP を使って管理装置にデータを送信する仕組み
- 問 22 量子アニーリング方式の量子コンピュータの説明
- 問 25 ステージング環境の説明



(午後I試験)

午後I問題の出題テーマと設問概要は、次のとおりで、全体にネットワークセキュリティの内容を問う設問が多かったといえます。3問とも普通レベルの問題でした。

問1 ネットワークの更改(精密機械部品製造企業) 普通

現状のネットワークと構成, ネットワークの更改方針, ベンダ提案の構成, セグメント間のファイルの受渡し, ファイル転送アプライアンスの利用時の流れ, 測定データの可視化, ミラーパケット

問2 セキュアゲートウェイサービスの導入(機械部品メーカー) 普通

現行のネットワーク構成, ネットワーク機器のVRFとインタフェース情報・経路情報, 新規ネットワークの検討, 新規ネットワーク構成と通信の流れ, 接続テスト

問3 シングルサインオンの導入(医療機器販売会社) 普通

ネットワーク構成, 機器の設定と利用形態, FW設定の通信許可ルール, ケルベロス認証の概要と通信手順, PC起動からサーバアクセスまでの通信手順, SRVレコードのフォーマットと内容

(午後II試験)

午後II問題の出題分野とテーマは次のとおりです。それぞれネットワーク技術とセキュリティ技術の幅広い理解が必要な設問が多かったといえます。前は少し難しい問題もありましたが、今回は2問とも普通レベルの内容だったといえます。

問1 テレワーク環境の導入(中堅製造業者) 普通

現行ネットワークと導入予定機器, SSL-VPN技術調査と適用, クライアント認証方式の検討, テレワーク環境構成と構成要素, VDI-仮想PC接続シーケンス, 冗長化構成, L3SWの冗長化

問2 仮想化技術の導入(総合商社) 普通

ネットワーク構成, サーバ仮想化技術, IPアドレス割当表, コンテナ仮想化技術, WebAPコンテナの構成, 共用リバースプロキシと仮想ブリッジセグメントのIPアドレス割当, 振分けルール, HTTP接続要求パケットの例, 専用APの構成, 監視の検討, 移行手順の検討

